

オビグロスズメの兵庫県初記録

堀内湧也・阪上洗多

兵庫県宍粟市にてオビグロスズメ *Sphinx crassistriga* (Rothschild & Jordan, 1903) が採集されたため、兵庫県初記録として報告する。

1♂, 兵庫県宍粟市山崎町, 28.VIII. 2024, 堀内湧也採集(図1).
標本は、兵庫県立人と自然の博物館にて保管される。

オビグロスズメは、全国的に採集例が少なく、スズメガ科の中でも稀種として知られている。本種は、国内では北海道、本州、四国から記録されているが(矢野・岸田, 2012), 本州西部では鳥取県でしか記録されていない(松井, 2020)。幼虫は、カラマツ *Larix kaempferi* やストロブマツ *Pinus strobus* を食べることが報告されている他、トドマツ *Abies sachalinensis* やモミ *A. firma*, ツガ *Tsuga sieboldii* の周辺でも幼虫が発見されることから、マツ属 *Pinus*, ツガ属 *Tsuga*, カラマツ属 *Larix*, モミ属 *Abies* を寄主として利用すると考えられている(増井, 2012)。西日本では、特にモミの周辺における幼虫や成虫の発見例が多く知られている(増井, 2012; 松井, 2020)。

本個体は、第一著者の堀内が、オオトラカミキリ *Xylotrechus villioni* を探索中の15時ごろ、モミの幹上で



図1 オビグロスズメ雄成虫。開帳62.4 mm.



図2 モミの幹上で翅を伸ばすオビグロスズメ。

発見したものである。発見時は羽化直後であったようで、翅を伸ばしているところであった(図2)。本報告の採集地周辺では2021年にも調査が行われているが、その際は発見されなかったため(池田・阪上, 2021), 生息密度は低い可能性がある。

兵庫県内ではモミを寄主とする蛾類の採集記録は少ないが、今回本種が得られた地域を調査することで、発見されることが考えられる。

○引用文献

- 池田大・阪上洗多, 2021. 兵庫県のスズメガ. きべりはむし, 43 (2): 26-45.
増井武彦, 2012. 超稀種オビグロスズメの謎 四国から初発見の経緯とその国内の記録. やどりが, 234: 13-17.
松井悠樹, 2020. 鳥取県でオビグロスズメを採集. 月刊むし, 594: 50.
矢野高広・岸田泰則, 2011. スズメガ科. 岸田泰則(編), 日本産蛾類標準図鑑1. 学研教育出版. 327-339.

(Yuya HORIUCHI 兵庫県宝塚市)

(Kota SAKAGAMI 兵庫県立人と自然の博物館)

姫路市辻井にてクロモンシタバを発見

肥塚陽太・肥塚真由美

2024年11月8日、姫路市辻井のハイツにてクロモンシタバ *Ophiusa tirhaca* を発見。Google レンズにより、色・大きさ・模様等を確認。特徴的であるため間違いないと確信した。その場では息子と名前がわかったことに満足し、写真は撮影していない。後日、姫路科学館に問い合わせたところ、姫路市での発見記録がない偶産種と教えていただいたことから、きっと台風の影響などにより、たまたま発見できたものだと思う。3日間程、同じ場所にいたので写真を撮影していなかったことは悔やまれる。

(Haruta KOEDUKA 兵庫県姫路市)

(Mayumi KOEDUKA 兵庫県姫路市)

編集部註

本報告については、総合的に判断して掲載することとしたが、記録として情報の正確性を担保するためにも、今後は原則的に本文に加えて写真等の資料をお願いしたい。